

単元案の概要

テーマ

「スペイン語圏の〇〇人に紹介したい日本の△△△」
「日本人に紹介したいスペイン語圏の△△△」

目標

学習レベル 4

スペイン語圏の〇〇人が授業を訪れることを想定し、学生にその〇〇人に日本のどこを知ってほしいかを選び、5分でプレゼンするように指示します。

これからスペイン語圏に行きたい学生のために、留学経験のある学生が留学した国の紹介したいところを選び、5分でプレゼンするように指示します。

コミュニケーション能力指標

自分と身近な人びと

4-c.家族(親子関係や家族の役割など)、家族のあり方について意見交換できる。

4-d.友だちづきあいについて(日本や相手の国の高校生の事例など)を比較することができる。

学校生活

4-a.日本の高校生活の特徴や教育制度について、口頭または文書で説明することができる。

4-c.相手の国の高校生活の特徴や教育制度について、日本と比較しながら意見交換できる。

4-d.受験について感想や意見を述べあうことができる。

日常生活

4-b.日常生活で起きたハプニングや失敗談を披露できる。

4-c.いろいろな人のライフスタイルについて学んだことを話しあうことができる。

4-c..地域・季節・民族などによって多様な料理の特徴について、レポートにまとめることができる。

4-b.現代の若者の食生活について、口頭で意見交換できる。

趣味と遊び

4-b.相手の国における日本のポップカルチャーについて話しあうことができる。

4-c.日本と相手の国の余暇の過ごし方について、口頭で発表したり、レポートにまとめたりできる。

交通と旅行

4-a.旅行の目的地(地理、歴史、見どころ、魅力など)について口頭または文章でやりとりできる。

4-d.日本と相手の国の交通システムについて、それぞれの特徴を比較しながら口頭で発表できる。

行事

4-a.日本と相手の国の行事の特色や共通点・相違点などについて、説明したり、自分の考えを書いたりできる。

地域社会と世界

4-c.現代社会の課題について、自分の意見を含めて、意見交換できる。

自然環境

4-a.自然災害や環境問題に関して、話しあうことができる。

4-b.自然災害や地球環境の問題を踏まえ、自分には何ができるかということ、国際協力のあり方について、議論できる。

4-d.ふるさとや、自分が行ったことのある/行きたいと思っている地域や国の、自然環境や四季の様子について、紹介でき

る。

ことば

4-a.辞書に載っていないことば(新語や俗語など)について意味を理解できる。

学習シナリオ

<場面状況>

スペイン語を専攻として学習している3年生のクラスで、留学経験のない学生は「日本の〇〇」、また、留学経験のある学生は「留学先の国の〇〇」を5分でプレゼンする。

<シナリオ>

- ① 学生の希望により、それぞれ発表したい日程を選ぶ。(定員:24人、一回の授業に発表者2人)
- ② 一人ひとりそれぞれ紹介したいテーマを選び、原稿を作る。
- ③ 学生がプレゼンの1週間まえに、教師のオフィスアワーの時間に、準備した原稿を見てもらい、プレゼンの長さ、発音、ボディーランゲージなどを確認する。
- ④ プレゼンの日に、
 - ・他の学生は評価点がチェックできる用紙を受け取り、記入する。(コメント欄に、良かった点、改善点を書きます)
 - ・ビデオ撮影する。
- ⑤ 学生が自分のプレゼンのビデオを見て、ルーブリックを参考に自己評価する。
- ⑥ 最後に、他の学生の記入した評価用紙の内容のまとめに教師のコメントを付けて、学生に渡す。

総括的評価

プレゼンテーションで評価を行う。評価ポイントは以下の7点とする。

- a) 原稿での文法が正確だったか。表現が適切だったか。
- b) 準備ができていたか。原稿を読まずに、発表できたか。
- c) 文法が正確だったか。
- d) 話し方(発音・イントネーション・流暢さ・声のボリュームなど)が理解しやすかったか。
- e) ボディーランゲージにより、コミュニケーションが向上したか。表情は適切だったか。アイ・コンタクトがあったか。
- f) 発表後の質疑応答で適切に回答ができたか。
- g) 発表時間を守ったか。

ワークシート3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	・プレゼンを行うのに必要な語彙・表現がわかる(A-1)。	・スペイン語圏の文化に関するさまざまな事象について知り、理解する(D-1)。 ・自文化や自分が知っている文化と比較してその違いや関係性に気付く(D-2)。	・グローバル社会の特徴や直面する課題について理解する(G-1)。
できる	・スペイン語を使って、身近な事柄や関心のある事柄について、自分の気持ちや考え、情報を伝えたり、相手の気持ちや考え、情報を理解したり、相手とやり取りをして運用することができる(B-1)。 ・留学経験のある学生とない学生の言語的能力のギャップを埋めて、コミュニケーションを成立させるために、様々なストラテジーを使うことができる(B-3)。	・スペイン語圏の文化と自文化の共通性や相違性を分析することができる(E-1)。 ・スペイン語圏の文化と自文化の異同の自由や文化事象の背景にある考え方や価値などについて、自分の考えを表明することができる(E-2)。 ・自分かを再確認したり、他の文化事象に適用したりすることができる。(E-3)。 ・異文化間の相違性から生じる誤解や摩擦を調整したり、妥協点を探ったりすることができる。	・自分の役割に責任を持って取り組む(H-1)。 ・自らの考えを根拠に基づいて表明することができる。
つながる	・スペイン語を使って、スペイン語圏の国や日本の事情を伝えたり、質問したりする(C-1)。	・異なる文化背景を持つ人々と積極的に関わることができる(F-1)。	
三連携	連携1:生徒の関心のあるテーマとつながる。 連携2:生徒の既習内容とつながる。/ 文化人類学、民俗学とつながる。 連携3:教室外の人(スペイン語圏の人)、情報とつながる。		

目標分解表

個々のタスク	小目標	中目標	大目標		
文化の相違点を考慮して、スペイン語圏の人または日本人が知っていなさそう、あるいは興味を持ちそうなテーマを考える。	何を紹介したいか決める。	プレゼンのテーマを決める。	スペイン語圏の人に、日本のどこかを知ってほしいかを選び、5分でプレゼンすることができる。 または、 これからスペイン語圏に行きたい学生のために、留学経験のある学生が留学した国の紹介したいところを選び、5分でプレゼンすることができる。		
紹介したい項目を決める。	プレゼンの内容をまとめて、正確に台本を作成する。	台本を作ることができる。			
内容をわかりやすくするため、文章の構成を考える。					
台本を正確に作成する(文法の間違いがないように注意する)。					
【総括的評価】台本の文法に基礎的な間違いがなく評価する					
イントネーションの練習をする。	聞き取りやすい話し方をすることができる。	プレゼンテーションを行うことができる。			
間の取り方の練習をする。					
流暢に話す練習をする。					
声の高さを調整する。					
【形成的評価】話し方のチェック	ボディランゲージを取り入れることができる。				
【総括的評価】プレゼンテーションの際に聞き取りやすい話し方だったか評価する					
身振り手振りを取り入れる練習をする。					
アイコンタクトをとる練習をする。					
〇〇という気持ちを表す表情の練習をする。	ボディランゲージのチェック				
【形成的評価】ボディランゲージのチェック					
【総括的評価】プレゼンテーションの際にボディランゲージが使えたか評価する					
プレゼンの練習をし、台本を読まずにプレゼンができるようになる。	プレゼンの内容を覚える。	プレゼンテーションを行うことができる。			
【総括的評価】内容を覚えているか評価する					
文法的な間違いがなく、確認する。	プレゼンを正確に行うことができる。				
【総括的評価】文法ミスがないか評価する					
聞かれる可能性の高い質問を予想し、答えられるように準備する。	質疑応答の準備をする。				
プレゼンのどの部分もわかりやすく説明できるか、確認する。					
【総括的評価】質問にちゃんと答えられたか、評価する。					

自分のプレゼンのビデオを見て、ループリックを使って、自己評価する。	プレゼンを振り返る。	今後のプレゼンを改善することができる。	
自己評価での点数の理由を書く。			
【形成的評価】良かったところまたは改善できるところを把握できているかチェック			

指示文

指示文1:

留学経験がない学生の場合、

スペイン語圏の〇〇人が授業を訪れたら、その〇〇人に日本のどういうところが知ってほしいと思いますか。文化の違いやスペイン語圏の人が知っていなさそう、あるいは興味を持ちそうなテーマを選んで、5分でプレゼンしてください。

留学経験がある学生の場合、

これからスペイン語圏に行きたい学生のために、留学経験のある学生が留学した国のどういうところを知ってほしいと思いますか。文化の違いや日本人が知っていなさそう、あるいは興味を持ちそうなテーマを選んで、5分でプレゼンしてください。

指示文2(プレゼンの準備に当たっての注意点):

準備に当たっては以下の点に注意をすること。

- ① 内容をわかりやすくするため、使用語彙や文章の構成を考えること。
- ② 台本に文法の間違いないように注意すること。
- ③ プレゼンの際に原稿を読まずに、発表できるようにすること。
- ④ わかりやすい話し方(発音・イントネーション・流暢さ・声のボリュームなど)をになるように練習すること。
- ⑤ ボディーランゲージにより、コミュニケーションが向上できるようにすること。
- ⑥ 発表後の質疑応答で適切に回答ができるように、プレゼンのどの部分もわかりやすく説明できるか、確認すること。また、事前に聞かれる可能性の高い質問を予想し、答えられるように準備すること。

指示文3(プレゼン後の課題):

それぞれ自分の発表のビデオを見た後、ルーブリックを以って、自己評価し、評価の理由を書くこと。

ルーブリック

	目標以上を達成 (5点)	目標を達成 (4点)	目標まであともう少し (3点)	目標達成まで努力が必要 (2点)
台本・原稿 x 3	プレゼンの台本を正確に作成できている。	プレゼンの台本に5個以下の基本的な文法ミスがある。	プレゼンの台本に5個以上 10 個以下の基本的な文法ミスがある。	プレゼンの台本に 10 個以上の基本的な文法ミスがある。
準備 x 6	台本を読まずに、観客に直接話をする事ができている。	プレゼンの大半では、観客に直接話をする事ができている。台本を5回以下しか読んでいない。	台本を5回以上10回以内しか読んでいない。	台本を10回以上しか読んでいない。
文法の正確さ x 3	プレゼンに文法ミスがなかった。	プレゼンに5個以下の基本的な文法ミスがある。	プレゼンに5個以上 10 個以下の基本的な文法ミスがある。	プレゼンに 10 個以上の基本的な文法ミスがある。
発音、流暢さ、 イントネーション、 声の高さ x 3	発音は正確で聞き取りやすかった。話し方が流暢でイントネーションや声の高さが適切だった。	概ね、発音は正確で聞き取りやすかった。プレゼンの大部分では、話し方が流暢でイントネーションや声の高さが適切だった。	発音、流暢さ、イントネーションや声の高さをもう少し改善する必要がある。	発音、流暢さ、イントネーションや声の高さを改善する必要がある。
表情・ ボディランゲージ x 2	アイコンタクトを取った。表情やボディランゲージも適切だった。	概ね、アイコンタクトを取った。プレゼンの大部分では、表情やボディランゲージも適切だった。	クラスの一部としかアイコンタクトを取らなかったり、時折、表情やボディランゲージも不適切だった。	アイコンタクトがほぼなかったり、プレゼンの大部分に表情やボディランゲージも不適切だった。
質疑応答 x 3	クラスメートの質問を難なく、雄弁に答えることができた。	クラスメートの質問に適切に答えることができた。	クラスメートの質問に適切に答えるのに多少の苦労があった。	クラスメートの質問に適切に答えることができなかった。
発表の時間	5分±5秒 評価の 100%	4' 50 ≤ X < 4' 55 5' 05 ≤ X < 5' 10 評価の 95%	4' 40 ≤ X < 4' 50 5' 10 ≤ X < 5' 20 評価の 80%	4分40秒以下・ 5分20秒以上 評価の 70%
その他	パワーポイントの使用は評価の対象にされません。写真を見せる場合、口頭で説明が伴うこと。			

学習者の個人的特性に対する対応

学生A	学生B
<p><特徴></p> <ul style="list-style-type: none">・スペイン語圏で留学し、帰国した学生。・真面目で、向学心を持っている。・スペイン語圏で生活した影響を受け、自己主張ができるようになっている。・自分のスペイン語力に自信がある。	<p><特徴></p> <ul style="list-style-type: none">・まだ留学経験がない学生。・真面目で、向学心を持っている。・自分のスペイン語力に自信があまりないがために、帰国した学生の発言力に多少萎縮し、クラス全員の前で発言するのに積極性に欠けてしまう。

<対応>

学生Aと学生Bの発言回数を揃えるため、プレゼン後の質疑応答の際、これまでの「自発的な挙手+教師からの指名」から「完全教師からの指名」制度に変更した。全員の発言回数を揃えたい意向を伝えた上、「どうしても聞きたい」場合、挙手するように指示した。

プレゼン中、難易度の高い単語や表現が出現する際、黒板の端っこにそれらの単語や表現を記入するようにしている。5分のプレゼンが終わり、質疑応答の前にその意味を説明する時間を取っている。まず、「意味を説明できる人」と呼び掛け、質疑応答で「話す我慢をしてもらおう」学生Aが説明することがよくある。たまに、学生Bが挙手し、説明することもある。